

箕面の森の春の植物

2016. 4. 15



カスミザクラ(遠景)



カスミザクラ(葉)



ウワミズザクラ



マルバアオダモ



ヤマネコノメソウ



アオキ(雌株)



キラソウ

根生葉が地面に張り付くように広がることから、ジゴクノカマノフタともいう。
これは「病気を治して地獄の釜にふたをする」ということからである。



タチツボスミレ



エドヒガン(遠景)



エドヒガン



ヤマシャクヤク



ハウチワカエデ



シロバナウンゼンツツジ



ツボスマレ(ニョイスミレ; 如意堇)



コブシ(辛夷)



ノキシノブ



コクサギ (小臭木 ; 強い臭気あり)



カリガネソウ (雁金草、帆掛草)



カゴノキ (鹿子の木)



アリドオシ

【アリオシとは】

・関東以西の本州から沖縄に自生する常緑の低木。葉の付け根に長さ2センチほどの鋭いトゲがあるのが特徴。このトゲが蟻をも刺し通すとして名付けられた。

・薄暗い林の中にまとまって生えていることが多い。本来、庭木にするようなものではないが、条件の悪いところでも育ち、赤い実をつけるため、和風庭園では他の樹木の下に「根締め」として使ったり、水鉢の前に植えて楽しむことがある。千両や万両とともに縁起のよい木とされる。

・10月ごろに成熟する実は直径1センチ弱で、翌春までの長期間、枝に残る。このため「(赤い実が)有り通し」として名付けられたという説もある。千両や万両ほど多くの実は付けず、別名「一両」とも呼ばれる。

※ 以上は、2016年4月15日に催行の箕面里山ハイキングで、9期・田中さん、MVG・唐木さんから説明頂いた植物の一部である。

※下記に続く

瀧安寺「採灯大護摩供」















